

## ヒメタイコウチ *Nepa hoffmanni* Esaki

### 【選定理由】

モウセンゴケやシラタマホシクサなどが生育する湿地に生息し、本県では広く分布するものの、宅地造成による埋め立てなどで生息地が年々減少している。

### 【形態】

体長は18～22mm。体型は長卵形で光沢のない暗褐色を呈し、尾端の呼吸管は非常に短い。前脚は捕獲脚になっている。前胸背は幅広く、小楯板は正三角形を呈す。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

豊橋市、豊田市、岡崎市、幸田町、西尾市（旧市域、旧吉良町、旧幡豆町）、知多市、美浜町、瀬戸市、長久手市、春日井市、名古屋市、犬山市など県内各地で確認されている。

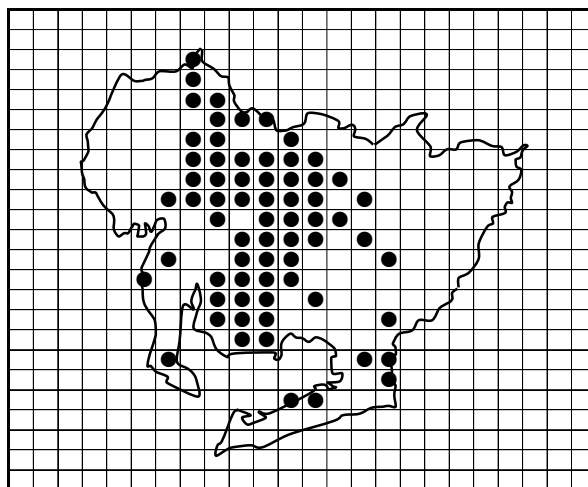
#### 【国内の分布】

本州（岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、兵庫県、奈良県、和歌山県）、四国（香川県）。

#### 【世界の分布】

ロシア極東（沿海州）、中国、北朝鮮、韓国。

県内分布図



### 【生息地の環境／生態的特性】

湿地、水田や用水路、溜め池の水辺などで常に水の流入が認められる環境に生息する。小石や植物の堆積物の下などに潜み、クモ類やゴミムシ類など徘徊性の小動物を捕食する。飛翔しないため移動性が乏しい。

### 【現在の生息状況／減少の要因】

県内では溜め池の水辺でも見つかる他に、道路脇や河川敷などの小規模な湿地でも確認されるため、湿地環境があれば生息している場合が多い。また、宅地造成等により孤立した小規模な湿地環境に依存している場合もあり、生息環境の悪化による個体数の減少や局所的な絶滅が懸念される。

道路建設、宅地造成による生息地の埋め立てや水脈の分断による湿地環境の乾燥化などで減少している。

### 【保全上の留意点】

人里近くに生息する場合は、宅地造成などで難しい面もある。湧水などが常に流入する環境に依存するため、水源を確保するうえで後背地の森林を保全することが重要である。

### 【特記事項】

西尾市の生息地が愛知県指定の天然記念物に指定されている（昭和43年指定）。

### 【関連文献】

- 浅岡孝知・家城 司, 1990. 愛知県の異翅目. 愛知県の昆虫, (上): 123-162. 愛知県.  
長谷川道明・佐藤正孝・浅香智也, 2005. ヒメタイコウチの分布. 付関連文献目録. 豊橋市博研報, (15): 15-27.  
堀 義宏・佐藤正孝, 1984. 半翅類. 愛知の動物: 99-107. 愛知県郷土資料刊行会.  
河路掛吾, 1990. ヒメタイコウチ. 愛知県の昆虫, (上): 503-506. 愛知県.  
松本 功・中尾史郎, 2018. III. 他種との関係 ヒメタイコウチの偏在と局在: その景観・群集生態学のアプローチ. 水生半翅類の生物学: 169-184. 北隆館, 東京.  
矢崎充彦・石田和男, 2008. 東海地方の水生半翅類. 佳香蝶, 60 (234): 165-200.

(澤田宗一郎)